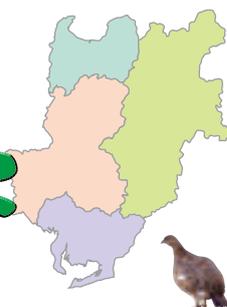




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>



信州新町小学校の出前授業の様子

森林・自然・地球温暖化

について考えよう

小中学校を対象に「出前授業」を実施

(P3に関連記事)

主な項目	○管内各県との連携強化等に向けた取組について…………… P2
	○北信地域の小中学生を対象に「出前授業」を実施…………… P3
	○希少種の保護・管理…………… P3～5



長野林政協議会総合委員会の様子

管内各県との連携強化等に 向けた取組について

「企画調整室・販売課」管内各県における民有林施策との連携強化や経営体質の強い林業事業者の育成・強化に資することを目的に、林政協議会等及び林業事業者育成協議会を開催しました。五月二十六日から六月十五日にかけて、局から名古屋事務所長、計画部長、森林整備部長をはじめ企画調整室長等が参加しました。

林政協議会等において、局からは地球温暖化防止森林吸収源対策としての間伐の促進や多様で健全な森林の整備、

国産材の安定供給等の課題に国有林として率先して取り組む考えを示し、当年度事業量、流域管理推進アクションプログラムなどの取組や民有林と国有林との一層の連携について呼びかけを行いました。また、各県からも同様に事業量等当年度の取組が紹介されるとともに、それぞれ特色ある取組等について説明がありました。

今年度、新たに設置した林業事業者育成協議会では、林業事業者の育成に関する施策やその活用、機械化に係る情報提供及び事業量の確保、安全衛生対策の取組に係る情報提供について意見交換を実施し、間伐の推進、低コスト・高効率作業システムの推進・普及を民国連携して推進すること、事業の安定的な発注等についての意見や中部局管内の四県が一堂に会して開催することによって、異なる地域での取組について知見を広めることが出来る場として設定することが良いのではとの提案も出されるなど、活発に協議が行われました。

森林・林業・木材産業に対しては、温暖化防止対策をはじめ、多様で健全な森林の整備、木材の安定供給や森林環境教育等様々なニーズが求められているところであり、政策の推進に追い風が吹いています。一方、経済危機による材価の下落や生産調整等厳しい状況となっております。補正予算等により経済危機対策として森林整備事業や治山事業、間伐や路



林業事業者育成協議会（岐阜県）の様子

網整備の推進、国産材の需要拡大、緑の雇用対策等を講じることとしており、ますます民国連携して取り組むことの重要性が高まっております。引き続き、このような協議会等の場を通じ、今後も相互の意見・情報交換を進めるとともに、流域単位でも、森林管理署等や県の地方事務所などとの間で個々の事業・施策について意見交換等により認識を深め、調整するなど、民有林施策との連携をより強化していくこととしました。



平成二十一年度 永年勤続職員表彰式

平成二十一年度中部森林管理局永年勤続職員表彰式が行われ、城土局長から一級精勤章受章者並びに二級精勤章受章者に対し、永年にわたる国有林野事業職員としての勤労を称えらるとともに、精勤章の賞状が授与されました。精勤章受章者は次の方々です。

◇一級精勤章

(勤続年数三十年以上)

- 技 城土 裕 (局長)
- 事 池本 育利 (企画調整室)
- 技 上條 浩明 (職員厚生課)
- 技 新家 孝之 (経理課)
- 技 川田 温 (治山課)
- 技 佐々木克芳 ()
- 技 室崎 浩伸 ()
- 技 辻ノ内良明 (伊那谷総合)
- 技 酒向 篤憲 (愛知所)
- 技 佐野 鉄夫 (名古屋所)
- 技 船坂 智春 (富山署)
- 技 米澤 義則 ()
- 事 松井 公代 (北信署)
- 技 上島 弘幸 (中信署)
- 技 土屋 幸治 ()
- 事 岩崎 剛 ()
- 事 荻原 育夫 (東信署)
- 基 菊池 庄二 ()
- 基 寺井 明 ()



一級精勤賞受賞者

- 技 寺澤 政人 (東信署)
- 技 丸山 和久 (南信署)
- 基 大澤 真人 (〃)
- 基 井ノ上浩之 (〃)
- 技 永井 隆雄 (木曾署)
- 基 織田 良二 (〃)
- 基 村井 庄一 (〃)
- 基 森山 直保 (〃)
- 基 深谷 保彦 (南木曾支署)
- 技 坂口 邦明 (飛騨署)



二級精勤章受章者

- 技 坂元 邦夫 (岐阜署)
- 基 寺田 良雄 (〃)
- 三十一名
- ◇二級精勤章
(勤続年数二十年以上)
- 技 岡村 宗明 (企画調整室)
- 技 依田 忠雅 (経理課)
- 技 安田 智宏 (愛知所)
- 基 山口 力也 (〃)
- 技 三井 正 (北信署)
- 技 澤口 章一 (〃)
- 技 松川 淳平 (中信署)
- 技 平栗 利治 (南信署)
- 技 久保 喬之 (木曾署)
- 基 森 和也 (南木曾支署)
- 技 山田 好男 (岐阜署)
- 十一名

北信地域の小中学生を対象に 「出前授業」を実施

「指導普及課」七月十日、長野市の櫻ヶ岡中学校において、一年生の生徒、一九一名を対象に「出前授業」を実施しました。

今回の「出前授業」は、七月二十八日・二十九日に予定されている、同校の一年生の戸隠キャンプの事前学習として依頼を受け、「戸隠の魅力ある森林について考えよう」という趣旨のもと、森林のはたらきや戸隠の自然、また三角定規を使った樹木の測定や動物の足跡についての学習を行いました。

キャンプ当日は出前授業の二回目として、キャンプ地である戸隠国有林内にて、ノコギリ体験がしたいというクラスを対象に、丸太切り体験を実施する予定です。

また、七月十四日には、信州新町小学校五年生の児童三十一名を対象に「出前授業」を実施しました。

今回の「出前授業」は、同学年のキャンプのプログラムの一つとして依頼を受けたもので、キャンプ地である自然豊かな信州新町の左右高原に向き、森林のはたらきや、地球温暖化について学習した後、現地の樹木を使ったゲームや昆虫のぬげがらの観察、そしてノコギリ体験や間伐木を利用したクラフト作成の実習



信州新町小学校五年生の出前授業風景

児童達が住んでいる町は緑が豊かであり、森の話に大変興味深く聞き入り、実習では、一生懸命に体を動かしながら、森林の役割や大切さを実感していました。

希少種の保護・管理

おかえりハナノキのごもたち
地元住民参加で里帰りを促す

「南木曾署」平成十七年度に独立行政法人林木育種センターでさし木増殖した柿其・阿寺国有林の希少種ハナノキが南木曾支署へ里帰りしました。

里帰りを受け、各町村や団体等に里帰



阿寺溪谷で植樹に参加したみなさん

り記念行事の開催について打診したところ、快く了解を得て、五月十五日に南木曾町柿其溪谷において、南木曾町長をはじめ、独立行政法人林木育種センター、地元の住民約二十名の参加のもと植樹イベントを実施しました。

南木曾町長からは「ハナノキの里帰りをうれしく思う。柿其溪谷の観光資源にできれば」等のあいさつをいただいた

後、参加者で植樹を行いました。

また、六月十日には大桑村阿寺溪谷において、大桑村長をはじめ、大桑村議会、阿寺溪谷の整備活動を行っている阿寺ふれあいエコクラブ等四団体から約四十名の参加を得て同様の行事を実施し、支署長から経緯説明を含めたあいさつを行った後、阿寺溪谷の森林整備についての説明、グリーン・サポート・スタッフ事業の紹介等、国有林の取組のPRを行いました。

大桑村長をはじめ来賓からは「大木になるまで見続けたい」「ハナノキは地元観光の資源になるのでは」等、里帰りを歓迎するあいさつがあり、参加者代表による記念植樹後、全員でハナノキの母樹周りへの植樹や阿寺溪谷のトレッキングルートへの整備を行いました。

両行事には、地元新聞社も取材に訪れ、記事として掲載されました。

今後は地元・各種団体と協働しハナノキの保護・管理を進めていくこととしています。



雪で折れたポール

**防鹿柵でお花畑の復元を！
(ニホンジカ防鹿柵設置)**

「南信署」高山帯のニホンジカによる食害対策として、南アルプス食害対策協議会（会長・伊那市長）と南信署との協働事業が本年度もスタートしました。

六月二十日に南アルプス食害対策協議会と合同で昨年度設置した箇所において、自然条件が防鹿柵に及ぼす影響を調査するとともに、昨年度設置した防鹿柵の修理及び再設置を行いました。

三千以上の風雪や温度変化などで厳しい自然環境における防鹿柵への影響については未知なこともあり、昨年度の防鹿柵は、①ポール・ネットなどを全部残すタイプ②ネットだけをおろすタイプ③全部を撤去するタイプの三タイプを設置



雪で折れたポールを修復する参加者 1

し、タイプ毎の冬期間の防護柵に対する風雪の影響を調査しました。

調査の結果、①のタイプは、ネットのほとんどが雪の影響により、ずり下がったり、ポールが折れてしまい再設置の処理が手間取る。②のタイプは、ネットを再設置する労力だけで再設置は楽であるが、立てたままのポールが折れてその処理に手間取る。③のタイプは、設置には手間がかかるが、雪の影響が無く再設置は楽である。この結果が得られました。

この結果を踏まえ、今年度の追加設置は③のタイプを選定し、七月九日、約三十名のボランティアとともに、昨年度設置（仙丈ヶ岳周辺・馬の背付近）した場所の上部に、二箇所合わせて長さ二八〇㍎、約〇・一五㍎の防鹿柵を追加設置しました。

ボランティアの方々はお昼前には全員が集合し、流域管理調整官の全体説明



雪で折れたポールを修復する参加者2

の後、各班に分かれ追加設置を行いました。二日間ともあいにくの雨に見舞われましたが、ボランティアの皆さんの頑張り、完成することができました。ボランティアの方々には達成感一杯で、「次回もあるようなら是非参加し、防鹿柵の効果によって以前のお花畑に戻って欲しい」との言葉を口々に語っていました。

また、山小屋のご主人からは「テレビや新聞を見て、実際にこの目でニホンジカの被害の実情を見たくて仙丈ヶ岳に登山されたという方々も増えつつある」という声も聞かれ、各種報道の効果を改めて実感するとともに、南アルプス食害対策協議会との連携を密にして、今後も防鹿柵のメンテナンスなどを行い高山植物の保護活動に取り組んでいくこととしています。

各地からのたより

「ガールスカウトの森」 記念植樹・下草刈作業

【北信署】六月七日、ガールスカウト長野県支部の一〇一名が、戸隠山国有林に平成元年から設定されている「ガールスカウトの森」で苗木の植樹を行い、当署から三名の職員が指導しました。

同支部は今年度で結成四十五周年を迎え、今回はその記念として、ブナ、ミズナラ、キハダ、オオヤマザクラの四種類、計一三〇本の植樹を行いました。

また、七月五日には同箇所において、東信地区のガールスカウト九十名が「樹木の生長を通じて環境について考え、森の育成に必要な管理について学び、勤労の大切さを知る」ことを目的に、下草刈作業を行いました。作業開始前に岡署

新たに広げた「第3の森」に達
植樹を行うガールスカウト

長から、「森林づくりが温暖化防止に大きく役立ちます」との話の後、鎌の取り扱い・指導を行い、皆で安全意識を高め、作業に取り掛かりました。スカウト達は最初、慣れない手付きで鎌を扱っていましたが徐々に慣れ、ケガも無く、無事に作業を終了し、一時間後にはとても見違える森となりました。

ガールスカウトの森の整備は、これからも継続的に取り組んでいくこととしています。

神通・宮川上下流連携で 源流の森づくり

【飛騨署】高山市と協定している宮国有林の「遊々の森」を中心に、「源流の森づくり」が六月二十七日開催されました。この源流の森づくりは岐阜県の上流連携の取組として、神通・宮川最上流部での自然体験を通して、森の大切さ、そして源流から流れ始める水や川の大切さを再認識することを目的として開催され今回で十七回目となります。

宮川の最上流部ツメタ谷での水源地散策を始め、巨樹・巨木一〇〇選に選ばれている大イチイやアカマツ遺伝資源保存林などの見学、サワグルミの大木を利用したツリークライミングのほか、市有林での間伐体験、ヒノキ間伐材にナメコの植菌、木工教室など多彩な催しとなり、参加者も地元高山市民や富山市民など約



ツリークライミングを体験する子ども達

一二〇名が参加し源流の森での一日を楽しみました。

開会式では、来年岐阜県で開催が決まっている「全国豊かな海づくり大会」の協賛行事であることなどが紹介され、そのあと希望コースに分かれ森林とふれあいました。ツメタ谷での水源地散策では、昨年開設した散策道の補修を名古屋林業土木協会久々野高山支部のボランティア活動で事前に実施していただいたことから快適な散策ができました。当日は、富山県からの家族連れや地元の子ども達が林道終点から約一キロを歩いて源流にたどり着き、流れ出た水の澄んで冷たいことに感動していました。

ツリークライミングでは、インストラクターの指導で子ども達が樹高二十五メートル



地元住民と林道新設工事箇所を視察して

のサワグルミの大木の木登りを体験しました。
 その外にも森林や木と触れあう様々な体験への参加を通して、楽しみながら森林の大切さを理解してもらおう一日となりました。

南木曾町住民を迎えて 林道現地視察会を開催

〔南木曾署〕七月二日、当支署管内の南蘭国有林において、南木曾町広瀬地区住民を対象とした中ノ沢林道新設工事箇所の現地視察会を実施しました。

これは、昨年度から新設工事がスタートした中ノ沢林道が、地元集落の水源を横断するなど生活面で密接に関係しており、林道の必要性や当支署の事業運営に

ついて理解を深めてもらうために施工現場の視察を行うもので、地元住民のほかに南木曾町議員及び町職員など十八名が参加しました。

当日は、昨年度実施した新設工事箇所において、土質状況、流水の処理方法、構造物の施工状況等を視察し、今年度の工事概要、昨年度の施工実績を踏まえた改善点、今後の森林整備等について説明を行いました。参加者からは「森林整備のための道を作ることは良いことだ。林道を活かして今後森林整備を適切に行って欲しい」「工事の実行に当たっては、土砂が流出することの無いよう十分注意し、安全第一で施工して欲しい」といった意見がありました。

林道は、森林の適切な整備及び保全を図るうえで基幹となる施設で、とりわけ奥地の間伐や治山事業の実行には林道の開設は必要不可欠であり、ひいては住民の暮らしを守る災害に強い森林づくりに繋がります。今後このような場を設け、地元の方から幅広く意見を聞き、理解を得ながら事業を実行していくこととされています。

生協と協力してイベント開催 大学生が森づくり

〔南信署〕七月十一日、東京一円と松本市等から集まった大学生八十五名が森づくりに参加しました。東京農大や早稲田



間伐を体験する参加者

大などの様々な学部からと、地元信州大学農学部的一年生などが国有林を訪れ、間伐を行いました。

このイベントは、平成二十年度に取り組み始めた森林官と信大生の交流から発展してフィールド提供に至ったものです。

信大生は、受け入れ側として南信署職員と一緒に下見や打合せをし、当日の指導アシスタントなどを行いました。

参加した大学生達は実際に木を切り倒すという貴重な体験を楽しみつつも、森林ふれあい係による森林教室を聞いて「木材利用の現状が分かり、少しショックを受けた」「林業に興味がわいた」など新鮮な発見をしたようです。

今回、分野を超えて学生が交流したことで、多様な立場で森林林業のことを考

える人づくりを署として手伝うことができました。来年以降も継続して支援していくこととしています。

シリーズ 現場最前線

なんでも造ってしまう技能集団

〔南木曾支署柿其森林事務所〕柿其班の所属する柿其森林事務所は、木曾谷の南端を管内とし、柿其、沢谷、田立の滝（現在復旧治山工事を施工中で入林を規制中）といった素晴らしい景観を有する国有林を管理しています。

班員は七名で、全員が生産事業の経験者で物づくりはお手のものといった技能集団です。

主な業務は、歩道の整備やカモシカ防護柵修理、林道維持修繕、案内標識作成設置などの森林保全管理業務となっています。

管内の国有林は、石英斑岩で硬い岩石からなり、南木曾支署管内でもとりわけ急峻な地形をしています。その地形は谷を深く刻み、対岸へ渡るには橋が必要となります。しかし、橋は架けられてから長年経過し老朽化してきており、今後の森林整備等各種事業の実行には、新しく吊り橋の架け替えをする必要があります。



吊り橋の架け替えを終えて

このことを業務打合せの中で話したところ、「俺たちに任せておけ」の声があがり、橋の架け替えを実行することとなりました。

当班では、過去に吊り橋を架けたことはなかったのですが、長年製品生産事業で集材線の架設をしてきた経験がものをいって、昨年難なく完成させることができました。

今年も一基、昨年よりも高度の技術が必要とする吊り橋の架け替えに事前の綿密な打合せはもとより、日々の作業段取りの確認を確実に行って、安全帯、保護具を完全着用し、安全第一の旗印のもと、班員一丸となって挑戦中です。



塩硝の道 (五箇山)

「富山署」塩硝の道とは、江戸時代に加賀藩が五箇山で製造した火薬の原料「塩硝」(塩硝製造は秘密にされていたため煙硝の煙は「塩」の字を使っています。)を金沢まで運んだルートで、西赤尾・小矢部国有林内を通る南砺市西赤尾からブナオ峠、刀利を経て金沢に至る道が「塩硝の道」として最も多く使われていたそうです。

この火薬の原料となる硝石は、日本では天然での産出ができなかったため、江戸時代は民家の床下の土から人工的に抽出していました。加賀藩は塩硝の質・量とも全国一を誇っており、その全てが五箇山で生産され、金沢に運ばれていたそうです。現在ブナオ峠までの八百区間の道が「ブナオの四十八曲り」として整備されており、七月八日には名古屋CF事業により、塩硝の道を実施し散策しやすいように整備しました。



五箇山・こぎりこ踊り

この区間は、ブナの木が生い茂り、難所といわれた箇所です。重い塩硝を担いで通った先人の苦勞がしのび、五箇山地区から金沢を結ぶ壮大な歴史ロマンを思い起こさせてくれます。また、ブナオ峠は、大門山・奈良岳方面への登山道入り口にもなっています。

五箇山といえば五箇山合掌造り集落

として菅沼及び相倉合掌造り集落が有名ですが、この二つの集落は平成七年十二月九日に、岐阜県白川郷とともに世界文化遺産に登録されました。認定された背景には、合掌造りのすぐれた建築とともに、周囲の田畑やあぜ道、水路、石垣、雪持林なども含めて昔ながらの景観が維持されているのが、日本全国でも五箇山

と白川郷だけであること等が評価に値したそうです。菅沼に九棟、相倉に二十三棟の合掌造りがあり、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンでも「行く価値あり」との評価で五箇山が最高峰の三つ星を獲得しています。

菅沼合掌造り集落内には、塩硝の製造工程を展示した塩硝の館もあり、塩硝の製造が五箇山の一大産業であったことが分かります。

その他五箇山では、日本最古の民謡「こきりこ節」が有名で、特徴的なお囃子「デレレコデン」は一度は耳にされたことがあるのではないのでしょうか。「村上家」(国の重要文化財)で鑑賞することができます。(要予約)

◆アクセス

五箇山ICから車で

塩硝の道 県道福光上平線

約二十分

菅沼合掌造り集落 国道一五六号経由

約五分

相倉合掌造り集落 国道一五六号

三〇四号経由 約十五分

村上家 国道一五六号経由

約十分



世界文化遺産・相倉合掌造り集落



塩硝の道を歩く登山者

行事・会議の予定

◎教職員森林環境教育研修

8月4日 木曾署管内

8月4日 北信署管内

8月5日 南信署管内

8月6日 中信署管内